

2020年度海外留学支援制度(大学院学位取得型)募集要項

(個人応募用)

「海外留学支援制度(大学院学位取得型)個人応募」は、「海外留学支援制度(大学院学位取得型)大学取りまとめ応募」による申請ができない者に対して、応募の機会を確保するために実施するものです。

「個人応募」による応募については、以下のいずれかに該当することが必要です。

- ・海外の高等教育機関において「学士」以上に相当する学位を取得した、又は取得を目的に在籍しているため、取りまとめを依頼できる日本の大学がない。
- ・応募時に日本の大学に在籍しておらず、かつ、卒業大学が「大学取りまとめ応募」を受け付けない。

※本制度における「大学取りまとめ」とは、日本の大学が応募者と機構の間で各種手続きを行うものです。応募時に、応募者は取りまとめ大学を通じて機構に照会や応募書類を提出します。

※個人応募による応募者の卒業大学から大学取りまとめ応募があった場合、機構は当該大学に対し、大学取りまとめ応募で受付を行わなかったことを確認することがあります。個人応募で応募するにあたって、応募者は、事前に卒業大学に大学取りまとめ応募の可否を必ず確認してください。なお、卒業大学への確認状況は、事前登録時のアンケートによりお尋ねします。

※この募集は、2020年度予算の成立を前提に行うものです。

1. 趣旨・目的

海外留学支援制度(大学院学位取得型)(以下「本制度」という。)は、諸外国(地域)に所在する大学(以下「留学先大学」という。)へ留学する日本人学生等に対し、独立行政法人日本学生支援機構(以下「機構」という。)が、国費により学修・研究活動に必要な経費を支援することにより、留学生交流の一層の拡充を図り、日本と諸外国(地域)との相互理解と友好親善を増進し、国際的にも指導的立場で活躍できる優秀な人材の育成及び高度化に努め、グローバル人材の育成に必要な日本人学生等の海外留学を促進するとともに、日本の国際化・国際競争力強化に資することを目的とします。

2. 派遣学生の定義

この「募集要項」において「派遣学生」とは、修士又は博士の学位を取得するために留学(日本の大学と外国の大学との間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラムによる留学を含む。)する日本人学生等で、留学先大学における学位取得のための正式な教育課程に在籍する間、本制度により学修・研究活動に必要な経費の支援を受ける者としてします。

3. 支援予定人数

未定(参考: 2019年度採用人数95名)

4. 支援対象となる留学計画

(1) 対象分野及び課程

修士又は博士の学位取得が可能な分野(芸術の実技分野を除く)及び課程。

※学部・修士一貫課程については、本制度に応募できません。

(2) 対象国(地域)

(1)について学位取得が可能な大学が所在する諸外国(地域)。

(3) 支援期間

修士の学位を取得するコースは2年(24か月)、博士の学位を取得するコースは原則3年(36か月)です。

※本制度では、在学年限(在学可能な年限)ではなく、留学先大学が定める学位を取得するための最短期間を支援します。

※修士・博士一貫課程で修士課程(博士前期課程)に相当する期間に在籍する場合の支援は最長2年(24か月)、博士課程(博士後期課程)に相当する期間に在籍する場合の支援は原則3年(36か月)になります。

(例)博士の学位を取得するための最短期間が5年の場合

支援開始時期	支援期間(最大)	
1学年から	2年	修士(博士前期)課程に相当
2学年から	1年	
3学年から	3年	博士(博士後期)課程に相当
4学年から	2年	
5学年から	1年	

※正式な教育課程で学修・研究活動を開始する前の語学研修期間等については、支援期間に含めません。

※支援期間中の休学は、原則認めません。

※支援期間中に退学する場合は、本制度による支援を終了します。

(4) 支援期間の開始と終了

①開始

2020年4月1日から2021年3月31日までの間に、留学先大学が所在する諸外国(地域)において、学位取得のための正式な教育課程での学修・研究活動を開始する月から支援を開始します。

既に学位取得のための正式な課程に留学中の者で、学修・研究活動を継続する者については、2020年4月1日から2021年3月31日までの間で新たな学年となる月より、支援を開始します。

学年の明確な定義がない場合は、12か月を1学年とみなします。

※2021年3月31日までに学位取得のための正式な課程に入学したことが確認できない場合は採用を取り消します。

※オリエンテーションや履修登録の期間は、学修・研究活動に含めません。

②終了

4. (3)で定める支援期間の終了時又は留学先大学の学籍を有しなくなる時点のどちらか早いときとします。

5. 資格要件

次の(1)～(15)に掲げる全ての要件を満たす者とします。

(1) 日本国籍を有する者又は日本への永住が許可されている者(特別永住者を含む。)

※本「募集要項」でいう「日本人学生等」には、日本国籍を有する者の他に日本への永住が許可されている者(特別永住者を含む。)を指します。

- (2) 次のいずれかに該当する者
- ① 留学期間終了後、大学や研究機関等において、日本の国際競争力の強化や国際社会への知的貢献に資する教育研究を行う意思を有する者
 - ② 留学期間終了後、国際機関等の中核的な職員として国際貢献に資する活動を行う意思を有する者
 - ③ 留学期間終了後、その他の機関において、①又は②に類する活動を行う意思を有する者
- (3) 国費による本制度の支援を受けて自身が留学で得た経験や成果を、将来にわたって日本社会に還元し、国や社会に貢献する者で、かつ機構が依頼する各種イベントへの参加、書籍への執筆、調査等に協力する者
- ※ 留学先での日本のPRの実施や日本での留学報告会、留学経験を踏まえた社会貢献活動に参加することも含まれます。これらの活動状況については、支援期間中及び支援期間終了時から5年の間、年に1回実施する派遣学生状況調査において報告を求めます。
- (4) 2020年4月1日現在の年齢が次のとおりである者
- ① 「修士」の学位取得を目的とする者： 35歳未満
 - ② 「博士」の学位取得を目的とする者： 40歳未満
- (5) 学校教育法第2条に基づき設置された日本の大学等を卒業し、学士以上の学位を取得した者若しくは取得見込みの者、又は海外の高等教育機関において、日本の「学士」以上に相当する学位を取得した者若しくは取得見込みの者
- (6) 支援期間開始時から終了時まで、大学、企業等に雇用されていない者（短時間労働者を除く。）
- (7) 留学先大学での主たる使用言語の能力が、次に掲げる水準以上である者
- ① 留学先大学での主たる使用言語が英語である者
 - ア. 応募締切日から過去2年以内に受験した英語能力試験の得点が、TOEFLの得点でPBT(Paper-Based-Test) 600点、iBT(internet-Based-Test) 100点、又はIELTS 7.0(Academic Module Overall Band Score)以上の水準を満たす者
 - イ. 留学先大学が求める語学能力が上記「ア」以上である場合は、留学先大学が明示する語学能力以上である者
 - ② 留学先大学での主たる使用言語が英語以外である者
 - ア. 応募締切日から過去2年以内に受験した主たる使用言語の語学検定の得点が、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR) C1レベル以上である者
 - イ. 留学先大学が求める語学能力が上記「ア」以上である場合は、留学先大学が明示する語学能力以上である者
- ※ 上記①、②ともに、留学先大学が求める語学能力が具体的な点数で明示されていない場合は、「ア」を適用します。「イ」について、留学先大学がリスニング、リーディング等の各技能の基準点を明示している場合は、指定された全技能が基準以上であることとします。
- (8) 支援期間開始前までに留学先大学の入学許可を得ることができる者
- ※ 留学先大学の入学許可は、「条件付」のものは認められません。支援期間開始前までに、条件のない入学許可(無条件入学許可)を得ていることを「入学許可書」の提出により確認できない場合は、採用を取り消します。
- (9) 支援期間開始前までに、必要な査証を確実に得ることができる者
- (10) 大学学部以降の直近(大学学部卒業見込み者又は修士課程修了見込み者は応募時の課程)の学業成績について、次に定める方法で求められる成績評価係数が2.7以上である者

[成績評価係数の算出方法]

以下の表により「成績評価ポイント」に換算し、計算式に当てはめて算出(小数点第3位を四捨五入)

	成績評価				
	—	優	良	可	不可
4段階評価(パターン1)	—	優	良	可	不可
4段階評価(パターン2)	—	A	B	C	F
4段階評価(パターン3)	—	100～80点	79～70点	69～60点	59点以下
5段階評価(パターン4)	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下
5段階評価(パターン5)	S	A	B	C	F
5段階評価(パターン6)	A	B	C	D	F
成績評価ポイント	3	3	2	1	0

(計算式)

$$\frac{(\text{「評価ポイント3」の単位数} \times 3) + (\text{「評価ポイント2」の単位数} \times 2) + (\text{「評価ポイント1」の単位数} \times 1) + (\text{「評価ポイント0」の単位数} \times 0)}{\text{総登録単位数}}$$

※履修した授業について単位制を採らない場合は、科目数を全て単位数に置き換えて算出すること。

- (11) 留学先大学での取得予定学位が、取得済み学位と同分野かつ同レベルでない者
- (12) 外務省の「海外安全ホームページ」上の「レベル2: 不要不急の渡航は止めてください。」以上に該当する地域以外に所在する大学に留学する者
 ※支援開始前又は支援期間中に、留学先大学又はフィールドワーク等で滞在する地域が「レベル2」以上に該当する地域になった場合には、奨学金の支給を見合わせる場合があります。
- (13) 留学先大学での勉学に耐えられる健康状態である者
- (14) 留学中の本人に代わり、日本国内で、日本語で確実に事務手続き等の連絡を取ることができる連絡人を有する者
- (15) その他、機構理事長が必要と認める条件を満たす者

《注意》応募者は、各自で留学先大学からの入学許可及び留学に必要な査証を取得してください。応募時に入学許可を取得できない者が採用された場合は、支援期間開始時までに入学許可を取得し、速やかに機構に提出してください。ただし、入学許可若しくは査証の取得に日数を要したことにより、2020年度中(2021年3月31日まで)に学修・研究活動を開始することが不可能となった場合は、派遣学生としての採用を取り消します。

6. 支援内容

支援期間中、派遣学生に対して、奨学金及び授業料(以下「奨学金等」という。)を支給します。これらの支援額については、2020年度予算の成立状況により変更する場合があります。

(1) 奨学金月額 (2019年度実績)

148,000円(指定都市)

118,000円(甲地区)

104,000円(乙地区)

89,000円(丙地区)

※詳細は別紙を参照してください。

(2) 授業料

1万米ドル相当までは実費額を支給し、1万米ドル相当を超える場合は、採用状況により予算の範囲内で追加支給する場合があります。ただし、各年度2,500,000円を上限とします。

授業料には、学費の他に履修登録料等の名目で正規の授業を受講するために留学先大学

に必ず支払わなければならない経費を含みます。ただし、保険料や寮費等の諸経費は除きます。また、必ず支払うものではなく、任意の支払いとなっている経費は含みません。

※年度とは、日本の会計年度(4月から翌3月)をいいます。

(3) 奨学金等の支給方法

奨学金等の支給は、派遣学生の本人名義の日本国内金融機関の口座に送金します。奨学金は、毎月在籍確認を行った上で、支給します。授業料は原則、各学年分を年度ごとに分けて送金し、留学先大学が発行する領収書等により精算します。授業料の現地通貨額から日本円への換算は、日本政府が例年12月に告示する「出納官吏事務規程第14条及び第16条に規定する外国貨幣換算率を定める件」を適用し、行います。

なお、授業料について、派遣学生は、機構が支給する前に留学先大学に納付する必要がある場合がありますので、留意してください。

7. 他奨学金等との併給

官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」との併給は認めません。その他の奨学金等との併給は可能です。ただし、その他の奨学金等支給団体側においては、本制度の奨学金との併給を認めない場合があるので、当該団体に確認してください。

8. 応募方法

(1) 事前登録

応募にはオンラインシステムを利用するため、事前登録が必要になります。事前登録は、以下のホームページから行ってください。登録したEメールアドレス宛に、オンラインシステムのIDとパスワード、URLを送信します。オンラインシステムにログインの上、機構が指定する応募書類を提出してください。

オンラインシステムの操作方法については、オンラインシステムにログイン後、メニューボタンから「オンラインシステム操作マニュアル」をダウンロードし、確認をしてください。

ア. 事前登録ページ

<https://www.saiyo-dr.jp/jasso-ryugaku/Entry/top.jsp?id=5>

イ. 事前登録期限

2019年10月11日(金)13時(日本時間)まで【厳守】

(2) 応募書類

① 2020年度海外留学支援制度(大学院学位取得型)願書(様式1-1)

② 経歴書(様式2-1)及び代表的論文の抜粋

※「代表的論文の抜粋」は、大学学部卒業(見込み)者で卒業論文がある場合は卒業論文の抜粋又は要旨を提出するのが望ましいですが、卒業論文がない場合はその他の論文やレポートを提出してください。

※共著や共同研究の場合は、共著又は共同研究であることを明記した上で、応募者自身がどのように貢献したかを明示の上、提出してください。

③ 留学計画及び修了後の進路計画書(様式2-2)

④ 日本社会への貢献について(様式2-3)

⑤ 2020年度海外留学支援制度(大学院学位取得型)留学先大学情報(第一希望)(様式1-2-①)及び留学先大学情報の根拠書類

⑥ 2020年度海外留学支援制度(大学院学位取得型)留学先大学情報(第二希望)(様式1-2-②)及び留学先大学情報の根拠書類【第二希望がある場合】

⑦ 推薦状(所定様式)【2名分】

⑧ 2020年度海外留学支援制度(大学院学位取得型)成績評価係数算出計算書(様式1-3)

⑨大学学部以降の学業成績証明書

※成績評価基準(Grading system)を併せて提出してください。

⑩大学学部以降の卒業(修了)証明書(又は見込み証明書)

⑪日本国籍の証明又は日本での永住許可を証明する書類(写し)

※次の書類のいずれかを提出してください。

- ・日本国籍を証明する書類
パスポート(写し)又は住民票(写し)
- ・永住許可等を証明する書類
在留カード(両面)(写し)又は住民票(写し)

※住民票は応募締切日から3か月以内に発行されたものを提出してください。

⑫留学先大学からの入学許可書(写し)(第一希望～第二希望)【取得している者】

⑬語学能力試験証明書(写し)

※主たる使用言語について、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)と対照できる外国語試験が全く存在していない場合は、「語学運用能力証明書」(所定様式)を提出してください。

※英語以外の言語について、当該試験が生涯資格であることにより、同レベルの級の再受験を試験実施団体が認めていないため、過去2年以内に受験した試験結果を応募時に提出不可能である場合に限り、応募時に以下の書類を提出してください。そして、支援期間開始時まで何らかの語学能力試験を受験し、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)C1レベル以上であることを証明してください。提出されない場合や基準に達していない場合は、採用が取り消されます。

ア. 直近の語学能力試験証明書(写し)

イ. 再受験が認められていないことが記載されている実施団体のホームページの情報
(日本語以外の場合、和訳を添付すること)

⑭連絡人届出書(様式1-4)

⑮2020年度海外留学支援制度(大学院学位取得型)「個人応募」出願書類確認表
(様式1-5)

※⑨、⑩、⑬「語学運用能力証明書」【該当者のみ】については、採用決定後、原本の提出を求めますので、採否結果が出るまで、原本を適切に保管してください。

◎推薦状と推薦状作成者(以下「推薦者」という。)について

- ・推薦状は2通(2名分)用意してください。推薦状は、「推薦状【推薦者用】」の書式に、和文若しくは英文での作成を依頼してください。推薦状は推薦者が封印したものを未開封のまま機構に提出してください。開封されたものは無効です。
- ・応募者が大学又は大学院在籍者である場合は、推薦者は2名とも指導教員等の大学教員に作成を依頼してください。
- ・応募者が大学又は大学院に在籍していない場合は、推薦者2名中少なくとも1名は指導教員等大学教員に依頼してください。
- ・推薦者には、支援期間を通じて、6か月に1回、第10項(1)に記載する留学状況報告書により、学修・研究活動の進捗状況の確認を求めることになります。そのため、研究内容に通じた方に作成を依頼してください。

(3)応募書類の提出期間

2019年9月5日(木)～2019年10月15日(火)13時(日本時間)必着

※提出期限を過ぎた場合は、いかなる理由があっても応募書類は受理しません。また、受理した応募書類は返却しません。

なお、郵送書類は10月15日(火)消印有効。ただし、10月23日(水)までに到着したもののみ有効。

(4) 応募書類の作成・提出方法

応募書類は、「2020年度海外留学支援制度(大学院学位取得型)申請の手引き【個人応募者用】」(以下「申請の手引き」という。)に従って、作成・提出してください。なお、必要書類の欠落(不足)や記入漏れ等があった場合は、審査の対象となりません。また、一旦受理した後の差し替え及び訂正は認めません。

ア. 応募書類ダウンロードページ

申請の手引き及び応募書類の各様式は、以下のホームページからダウンロードしてください。

https://www.jasso.go.jp/ryugaku/study_a/scholarship/daigakuin/2020.html

イ. 書類作成における注意点

- ① 書類の作成にあたっては、「申請の手引き」に加え、記入例を参照して、作成してください。
- ② 学長(総長)賞や学会における表彰を受賞している等、顕著かつ明確な実績がある場合は、面接審査においても確認する場合があるので、経歴書(様式2-1)に詳しく記入してください。

ウ. 書類提出における注意点

【郵送又は宅配便で提出するもの】

(2)の応募書類の「⑦推薦状」は、未開封の状態、第15項「応募書類提出先及び本件照会先」に送付してください。開封されたものは受理できません。

※書留又は宅配便等配達記録が残る方法で、封筒の表に朱書きで「海外留学支援制度(大学院学位取得型)応募書類在中」と記載して送付してください。

※郵送書類の到着確認には応じません。

※持参による提出は認めません。

【オンラインシステムで提出するもの】

(2)の応募書類の中の「⑦推薦状」を除く全ての書類について、オンラインシステム内の指示に従い、Excelファイル、Wordファイル又はPDFファイルをアップロードしてください。

9. 審査方法

(1) 第一次審査

応募書類に基づき、書面審査を実施します。書面審査の結果は、2020年1月上旬を目途に、応募者(全員)宛にオンラインシステム上で通知します。

書面審査の評価項目は以下を参考にしてください。

- ① 志望理由、留学期間中の研究計画の内容
- ② 留学終了後の将来計画、日本の国際競争力の強化や国際社会への貢献に資する期待度
- ③ 成績証明書、推薦状等の応募書類の内容

(2) 第二次審査

第一次審査の書面審査の合格者に対してのみ、面接審査を実施します。

面接日：自然科学分野 2020年2月1日(土)又は2日(日)

人文・社会科学分野 2020年2月3日(月)又は4日(火)

場 所：東京国際交流館（東京都江東区青海2-2-1）

面接審査の日程等の詳細は、書面審査の結果と合わせ、書面審査の合格者宛にオンラインシステム上で通知します。なお、面接審査に伴う旅費等は、応募者が負担してください。

面接審査の評価項目は以下を参考にしてください。

- ① 留学に向けての動機、熱意、人柄
- ② 留学に向けての準備、専門知識
- ③ プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力

(3) 採否結果

派遣学生としての採否結果は、2020年3月上旬を目途に、面接審査を行った者宛にオンラインシステム上で通知します。

(4) 採用決定後の手続き

派遣学生として決定した者は、以下の書類の原本を、2020年3月25日（水）までに、機構に提出してください。

- ① 誓約書(採否結果の通知とともに記入用紙を送付)
- ② 健康診断書(所定様式)
※健康診断書の有効期限は、診断日より3か月以内です。
- ③ 応募時にオンラインシステム上で提出した各種証明書の原本
 - ・大学学部以降の学業成績証明書
 - ・大学学部以降の卒業(修了)証明書(又は見込み証明書)
 - ・語学運用能力証明書(所定様式)【該当者のみ】

(5) その他

採否結果の理由に関するお問い合わせには一切応じかねます。

10. 留学状況報告書の提出

(1) 支援期間中

派遣学生は、支援期間中、定期的に学修・研究状況を機構に報告することになります。定期的な報告としては、別に定める様式により、6か月に1回提出する留学状況報告書、学修・研究状況に関する報告書及び年に1回提出する派遣学生状況調査があります。また、成績証明書の提出のほか、留学先指導教員による留学評価書(所定様式)の提出も求めます。

支援終了時には、支援終了から1か月以内に、学位記の写しとともに、学修・研究成果に関する報告書(様式任意)、成績証明書を機構に提出してください。

※2021年度以降の支援について、派遣学生から申請される「学修・研究状況に関する報告書」等の内容により、更新の可否を決定します。

※派遣学生又は推薦者が学位取得及び専門分野の研究遂行の可能性がないと判断した場合は、速やかに機構に報告してください。

(2) 支援終了後

フォローアップの一環として、支援期間終了時から5年間は、年に1回行う派遣学生状況調査に必ず回答してください。

それ以降についても、派遣学生の進路状況等をフォローアップするために状況調査を行うことがあります。本制度の趣旨を十分に理解し、協力してください。

11. 採用の取り消し

派遣学生が、次の事項に該当した場合は、派遣学生としての採用を取り消し、既に奨学金等を支給している場合にあっては、奨学金等の全部又は一部を返納させる場合があります。

- ① 第5項に掲げる要件を備えなくなったとき
- ② 第8項(2)に定める応募書類の記載事項に虚偽が発見されたとき
- ③ 第9項(4)により提出された誓約書に違反する行為があったと認められるとき
- ④ 第10項により提出された留学状況報告書等に基づき、派遣学生本人、留学先指導教員又は第8項により応募者が申請する推薦者が、学位取得及び専門分野の研究遂行の可能性がないと判断したとき
- ⑤ 派遣学生としての責務を怠り、派遣学生として適当ではないと機構が判断したとき
- ⑥ その他、上記以外の事項により留学の中止が適当であると認められたとき

12. 本奨学金等の財源

本制度は、日本政府から交付される補助金を財源に実施しており、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」(昭和38年8月27日法律第179号)の適用を受けます。

従って、不正な手段により補助金(奨学金等)の交付を受けた者、又は補助金(奨学金等)を他の用途に使用した者には、交付の取り消しや返還命令が行われ、場合によっては刑事罰が課されることがありますので、本「募集要項」や後日掲載予定の「派遣学生の手引き」等に定める規定や手続きを遵守してください。

13. 留学中の安全管理

派遣学生は各自で事前に留学等に関する情報収集に努めてください。留学の際には、現地の安全情報に十分注意してください。留学に関する情報収集の手段として、機構のホームページ等を活用してください。また、留学に関する安全情報の収集手段として、外務省「海外安全ホームページ」等を活用してください。

留学先国(地域)の状況から安全な留学が困難と認められる場合は、機構が留学の中止・延期又は帰国勧告を決定し、派遣学生としての支援を見合わせる場合があります。機構の指示があった場合は速やかに応じてください。その際、中止・延期又は帰国勧告に伴い発生する違約金、追加費用等については、派遣学生が負担することとなります。

留学中は、安全管理、健康管理に努めてください。留学中における事故、疾病等に対して、機構では費用の負担や現地でのサポートは行わないので、必ず留学先国(地域)や留学先大学で指定された保険又は海外旅行保険に加入してください。

[留学情報等照会先]

○独立行政法人日本学生支援機構

「海外留学支援サイト」URL: <http://ryugaku.jasso.go.jp/>

[海外安全情報照会先]

○外務省「海外安全ホームページ」(<https://www.anzen.mofa.go.jp/>)

○領事サービスセンター 海外安全相談班

〒100-8919 東京都千代田区霞が関 2-2-1 (外務省庁舎内)

TEL :03-3580-3311(内線2902、2903)

ホームページ https://www.anzen.mofa.go.jp/about_center/index.html

[在留届の登録について]

旅券法第16条により、外国に住所又は居所を定めて3か月以上滞在する日本人は、その住所又は居所を管轄する日本の大使館又は総領事館(在外公館)に「在留届」を提出するよう義務付けられています。現地で緊急事態等が発生した場合に在外公館からの連絡や保護を受けられるよう、現地到着後、必ず最寄りの在外公館に「在留届」を提出してください。

○外務省「在留届電子届出システム『ORRnet』」

14. 個人情報の取扱

提出された個人情報は、本制度実施のために利用します。また、行政機関及び公益法人等から奨学金の重複受給の防止等のために照会があった場合は、必要に応じて提供します。その他この利用目的の適正な範囲において、大学等高等教育機関・在外公館・行政機関・公益法人及び業務委託先に必要に応じて提供され、その他の目的には利用しません。

15. 応募書類等提出先及び本件照会先

「海外留学支援制度(学位取得型)受付センター」

(受託者)レジェンダ・コーポレーション株式会社

〒169-0074 東京都新宿区北新宿2-21-1新宿フロントタワー30階

TEL: 03-6863-5558

E-mail: jasso-ryugaku@s-hr.jp

受付時間:(平日)9:30～17:30

留学先地域による奨学金月額

地 区	地域名・都市名	地 区	地域名・都市名
指定都市 奨学金額: 148,000 円	アビジャン アブダビ クウェート サンフランシスコ シンガポール ジッダ ジュネーブ ニューヨーク パリ モスクワ リヤド ロサンゼルス ロンドン ワシントン	乙地方 奨学金額: 104,000 円	<u>指定都市、甲地方、丙地方以外の地域</u> 【主な都市】 ウェリントン クアラルンプール サンクトペテルブルク シドニー ジャカルタ ソウル ソフィア タシケント バンコク プラハ ブダペスト マニラ メルボルン ヤンゴン
甲地方 奨学金額: 118,000 円	・北米 ・欧州 ・中近東(アゼルバイジャン、アルバニア、アルメニア、ウクライナ、ウズベキスタン、エストニア、カザフスタン、キルギス、ジョージア、クロアチア、コソボ、スロバキア、スロベニア、セルビア、タジキスタン、チェコ、トルクメニスタン、ハンガリー、ブルガリア、ベラルーシ、ポーランド、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア旧ユーゴスラビア共和国、モルドバ、モンテネグロ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ロシアを除く) 【主な都市】 アムステルダム アンカレッジ ウィーン ヴァンクーバー エルサレム コペンハーゲン シアトル シカゴ チューリッヒ トロント ニューオリンズ ハンブルグ フランクフルト ブラッセル ホノルル ボストン マドリッド モントリオール ローマ	丙地方 奨学金額: 89,000 円	・アジア(インドシナ半島(シンガポール、タイ、ミャンマー、マレーシアを含む)、インドネシア、大韓民国、東ティモール、フィリピン、ボルネオ、香港を除く) ・中南米 ・アフリカ 【主な都市】 カイロ ケープタウン サンパウロ 上海 台北 ナイロビ ブエノスアイレス 北京 メキシコシティ リオデジャネイロ リマ

※地区の区分は「国家公務員等の旅費に関する法律」(昭和25年法律第114号)及び「国家公務員等の旅費支給規程」(昭和25年大蔵省令第45号)による。